審議会等の会議の概要の記録

会 議 の 名 称	令和６年度第３回甲州市都市計画審議会
開 催 日 時	令和７年２月７日　　　１０時００分 ～ １１時３０分
開 催 場 所	甲州市役所本庁舎２階　第１会議室
議 題	１、峡東都市計画　道路・公園・用途地域・準防火地域・ごみ焼却場の変更について（答申案について） ２、甲州市立地適正化計画の策定について
出 席 委 員	岡村美好、飯野照久、雨宮正明、上矢敏彦、山下宏、荻原雄司、櫻田学
会議の公開又は非公開の区分	公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	－
傍 聴 人 の 数	１人
審 議 概 要	報告事項及び議事 議事録は別紙のとおり。
事務局に係る事項	建設課　都市計画・まちづくり担当　出席者　６名 連絡先：0553-32-5072
そ の 他	無し

別紙

1 開会

2 事務局長あいさつ

3 会長あいさつ

4 傍聴希望者入室

5 議事

●議事「峡東都市計画　道路・公園・用途地域・準防火地域・ごみ焼却場の変更についての答申案について」の内容説明

会長：答申案について意見を伺いたい。
審議の中で事務局から提示された原案については異議はないものとしているが、その他委員各位から意見をいただいているので、長期的視点をもって整備してほしい旨申し添える形でまとめたが、如何か。

委員：異議なし。

会長：了解いただけたので本議会としての答申としたい。
続いて立地適正化計画の策定について、意見をいただきたい。

●議事（甲州市立地適正化計画の策定について）の内容説明

委員：基本的には子供が増えないと人口も増えない。幼稚園や保育園などの子育て環境を充実させないと人口も増えないのではないか。学校も減り、バス通学をしなければならない地域には若い人たちは住まなくなるのではないか。

事務局：立地適正化計画は人口減少に対応するために国が推奨している制度で、都市計画マスタープランの見直しを考える中で計画策定の取組を行うこととなった。
本市の計画は子育て世代も対象としており、都市基盤が整備されている市の中心地へ誘導し、コンパクトシティの実現を目的としている。
市内の各地域をネットワークでつなぐのが「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」と言われているものに当たる。現在循環バス、デマンドバスを運行しており、これらのネットワークを充実させたい。
人口を増加させることは難しいと捉えている。観光で移動人口を増加させ、企業を誘致できれば働く場所の提供ができ、市内を居住地として選んでもらえる家族や雇用

者が増えるのではないかと思う。

中心市街地への集約だけを目指すのではなく、ターゲットの一つとして取り組んでおり、今住んでいる方に対しては地域拠点間を結ぶネットワーク強化について検討していく。

生活利便性の整った、都市計画で定められている用途地域を誘導区域に選んでいる。誘導区域外に住んでいる方に対しても公平性を保ちながらしっかりインフラ整備できるようにということも考えている。

委員：誘導に関する策として、都市計画道路の整備と用途地域の変更について掲げているが、特に塩山駅の南側エリアの低未利用地の高度利用化を目指すとして捉えている。こうしたエリアに具体的に何人くらい誘導するという目標は定めているか。

事務局：その地域は、農地が多く点在しているエリアである。市としては低未利用地という捉え方をしている。

本計画の検討以前から、区画整理等をする可能性について検討はしており、最大値として約 150 戸の住宅地が整備できると見込んでいる。ただ、行政主導ではなく、道路整備が進むと土地の利用価値が上がるので、地元の機運が高まった時に実施するべきと考えている。

営農されている方もいるので、今後計画を運用する中で誘導を図りながら地域の声が上がってくるのを市としては望んでいる。

委員：先日テレビで「山梨県で住みたいまち」というランキングがあり、甲州市は上位で５位であった。甲州市のイメージは県下の中では良いのだと思った。ランキングの回答者は、新しい店や魅力的なものがあると回答していた。

ホテル建設の報道もある中で、昭和 60 年代に決定された都市計画施設が未だに完成していないことは悔やまれる。

全国の市町村で立地適正化計画策定に取り組んでいるが、当該計画を策定しても自治体として持続できるかは別の問題である。都市計画と一体として取り組まないと当然生き残れない。

人口が減少し、高齢化自体もピークを迎えつつある状況で、高齢者も減る時代に突入している。将来よりも今を何とかすべきという意見もあると思うが、その中で今できることを着実にやった地域が残れるのではないか。

市の都市計画事業が県の事業とも合致し、道路整備に関して方向性が出せるようになった。道路事業だけではなく都市計画全体で、駅周辺整備やネットワークを構築していければよいと考える。勝沼・大和地域にも鉄道駅があり、高速道路 IC も有しているが、それらをうまく活かしきれていなかった。今後はそのネットワークを活かし、まちづくりをしっかり進めていただければと思う。

委員：事務局の説明や地域説明会・区長会においても説明は聞いているが、居住誘導区域という
言葉は、それ以外の地域は居住を推奨される場所ではないと印象を受ける。今後の要望であ
るが引き続き丁寧な説明をお願いしたい。
　今は塩山南小学区の人気が高いという話を聞く機会があった。当該学区の地域には有効な宅地がなく、売地となっていても高価で、東山梨合同庁舎周辺など山梨市境の地域が新興住宅地化している。
　地域の子育て世代の方たちが居住地を取得しようとする時に、本計画が一つの有効な策になるという期待がある。市が高齢者福祉や子育て支援、空き地対策、農業振興などの様々な施策に積極的に取り組んでいるのを目の当たりにしており、本計画がまちづくりの基本の計画として、子育て支援や高齢者福祉、交通施策を展開していただけるようお願いしたい。

委員：駅を中心にみて賑わい、商店が西側に集中していると感じる。今後は東側、国道４１１号に近い地域が発展するのは望ましい。
　塩山駅南側の道路が狭いことへの対策も併せて取り組んでいただきたい。狭隘な道路の整備も居住者を増やす策の一つになるのではと思う。

委員：届出制度での状況把握だけでなく、積極的な誘導も必要ではないか。例えば市外からの転入者への補助金や税制優遇をすでに考えているか。ぜひ検討していただきたい。
　立地適正化計画の策定が条件の国の補助金も多くあるが、それらを活用して成功していただきたいと思う。

委員：計画を作って安心するのではなく、他のソフト施策との両輪できちんと実現させてほしい。
　今は社会の変化が速いので、できることから取り組み、ぜひ実現させていただきたい。
　若い世代は子供の教育環境が良ければ移住することをいとわないので、本市で良い教育環境や居住環境が整えば率先して来てくれるのではないか。
実現するというのは大変なことだと認識しているが、計画の推進をお願いしたい。

委員：仕事のやり方や生活様式もコロナ禍を経て大きく変った。オンラインで仕事をする人も増え、価値観も非常に変わり、都合の良いところに移り住むという時代である。
　本市は良いイメージを持たれているので、道路などの整備を進め、様々な制度や環境を整えれば移住者は来ると思う。
しっかりしたコンセプトを持って一つの方向性を目指していくようなまちでなければ生き残れないのではないかと感じている。

事務局：都市計画の見直しは、事務局としてはターニングポイントとして捉えている。

ご意見いただいた通り、計画を作って終わりではなく実行しなければならないと考えている。本市は東京からのアクセスが良く、居住地としてのポテンシャルが非常にある地域だと感じている。

道をつくるだけが目的ではなく、このエリアの住みやすさや魅力を向上させるための一つの手段として認識している。

都市計画部局だけの取り組みではなく、子育て・福祉など様々な分野の横断的な取り組みにより魅力ある住みやすいエリアに誘導を図っていくことが必要である。20 年の計画であるが、市を挙げて必ず成功させたいと考えている。

会長：以上で本日の議事はすべて終了とする。

6 傍聴希望者退室

7 その他

8 閉会